様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ５ 月 １５ 日現在

機関番号：１３３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３７０７６２

研究課題名（和文）豊臣コレクションの歴史図像学的研究

研究課題名（英文）Historical and iconographic study on Toyotomi Collection

研究代表者
黒田　智（Kuroda, Satoshi）

金沢大学・学校教育系・教授

研究者番号：７０４６８８７５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中近世日本における武家政権の宝物（絵画）コレクションとその歴史図像学的研究である。大坂城宝蔵にあった豊臣秀吉・秀頼の絵画コレクションを詳細に書き写した『豊臣御数寄屋記録』を翻刻・紹介した。本史料に掲載された作品の比定作業により、中近世武家政権の宝蔵とコレクションの継承と断絶の歴史を解明した。また、足利尊氏甲冑騎馬肖像画、豊臣秀吉像、東京藝術大学所蔵「聚楽第行幸図屏風」、徳川美術館所蔵「龍虎図」をとり上げ、豊臣政権の美術戦略を考察した。さらに、湯田中温泉よろづや所蔵「唐獅子図屏風」や金沢市内の板戸絵の調査により、中近世の獅子・虎図の歴史図像学的考察をすすめた。

研究成果の概要（英文）：This is a historical and iconographic study on the collection of treasure held by warrior governments in medieval and early modern Japan, which reprinted and introduced "Toyotomi Osukiya Kiroku," a detailed list of paintings collected by Hideyoshi and Hideyori Toyotomi and stored in the treasure house of Osaka castle. Through comparing the paintings listed in the above list, we revealed the history of succession/discontinued succession of the treasure houses and collections of warrior governments in the medieval and early modern Japan. We also focused on portraits of Toyotomi Hideyoshi, those of Ashikaga Takauji, "Jyurakudai Gyoko-zu Byobu" and "Ryuko-zu" to examine Toyotomi government's strategy of utilizing the art. In addition, we examined paintings of lion and tiger in the medieval and early modern Japan from the historical and iconographic aspect through researches of "Karajishi-zu Byobu" and some paintings on wooden door board in Kanazawa-city.

研究分野：中近世日本文化史

キーワード：歴史図像学　宝物論

１．研究開始当初の背景

天皇の蓮華王院宝蔵や東山文庫、藤原摂関家の宇治の宝蔵、室町殿足利氏のコレクション、寺社の宝蔵や村の倉をめぐる成果など、前近代日本の天皇や公家、武家、寺社によって営々と続けられてきた宝物コレクションの歴史については、これまで膨大な研究成果が積み重ねられてきた。

『豊臣御数寄屋記録』は、これらのなかでも武家の宝蔵・宝物の歴史の空隙を埋めるものとして注目される。本史料に記載された絵画は、中近世武家政権に継承された権力の象徴であった。すなわち、本史料により、鎌倉幕府・金沢文庫、室町殿、後北条氏、織田信長、そして豊臣、徳川幕府へと歴代の武家政権にコレクションが継承されてきた姿をはじめて明らかにしうるであろう。その伝来の背景には、贈与や掠奪による権力の移譲があり、流転する宝物をめぐる言説は文化と権力を考えるための格好の素材となる。

本研究は、(1) 中近世武家政権のなかで継承されてきた宝物群の移動とその言説をたどることにより、中近世日本における宝物の歴史的意義と、文化と権力の関係を考える。加えて、(2) より巨視的で豊かな視覚史料論の可能性を切りひらくための新しい挑戦でもあり、(3) 日本史学のみならず、日本文学、日本美術史学研究の交差点に構想され、絵画史のなかに孤立することなく、それをとりまく政治・社会経済・思想・地理的状況、文化的諸問題を横断する新しい文化史研究の端緒となるであろう。

２．研究の目的

本研究は、中近世日本における武家政権の宝物（絵画）コレクションとその歴史図像学的研究である。

東京大学史料編纂所所蔵の謄写本『豊臣御数寄屋記録』は、天正 9 年（1581）から文禄元年（1592）まで大坂城宝蔵にあった豊臣秀吉・秀頼の絵画コレクションを詳細に書き写した未紹介の目録である。本研究は、この『豊臣御数寄屋記録』の翻刻・紹介と考察により、豊臣政権がつなぐ中近世武家政権の宝蔵とコレクションの継承・変容の歴史を解明することを目的とする。由緒・縁起・伝来といった宝物がまとう中世的物語のありようや、東アジアにおける文物の移動（ネットワーク）の様相の一端が明らかにできる。

３．研究の方法

本研究では、①『豊臣御数寄屋記録』の翻刻と現存作品との照合、②関係作品の研究諸機関・寺社における熟覧・写真撮影、③関係史料と研究文献の収集、④研究著書・論文の執筆をすすめた。

特に、『豊臣御数寄屋記録』について、東京大学史料編纂所謄写本および東京藝術大学図書館謄写本の閲覧と校訂作業を実施した。

同時に、近世画譜類や近代売立目録等を参考に、データベース等の各種検索システムの利用、国立国会図書館・早稲田大学図書館ほかの研究機関における調査をすすめ、本史料に掲載された絵画作品の現存作品との照合、伝来等の情報収集につとめた。

さらに、湯田中温泉よろづや、東京藝術大学美術館・図書館、金沢市内寺社等で史料調査・撮影を実施した。また、国会図書館・毛利博物館ほかの研究機関より史料複写を入手した。

４．研究成果

(1)『豊臣御数寄屋記録』の考察

東京大学史料編纂所と東京藝術大学図書館にて『豊臣御数寄屋記録』謄写本の閲覧と校訂作業を行ない、翻刻を『学校教育学類紀要』8 号（2016 年）に掲載した。また絵画作品データベースを作成し、268 点の絵画作品の現存作品との照合と、伝来等の情報収集を実施した。豊臣コレクションの概容と、天皇家の宝蔵、室町殿足利将軍家・織田信長からの継承と断絶について、『天皇の美術史』3（吉川弘文館、2017 年）に執筆した。

(2) 足利尊氏甲冑騎馬肖像画の研究

『豊臣御数寄屋記録』に掲載された「尊氏馬上図」は、これまで知られていなかった足利尊氏甲冑騎馬肖像画である。本図の歴史的意義について、『十四世紀の歴史学』（高志書院、2016 年）に論文を掲載した。甲冑騎馬肖像画は、14 世紀に足利尊氏像として制作された「甲冑御影」が再登場をはたした寛正 3 年（1462）以降、狩野元信筆「足利義尚像」や「細川澄元像」をはじめ 10 数点もの作品が生み出された。「尊氏馬上図」は、最初期の甲冑騎馬肖像画の制作を知るきわめて重要な作品である。

その後、甲冑騎馬肖像画は 16 世紀末以降に再登場し、「黒田長政像」や「伊達政宗像」などが描かれた。他方、16 世紀に甲冑騎馬肖像画から甲冑肖像画へと図像展開し、近世武家肖像画へと発展してゆく様相を、本多忠勝像を事例にして『民衆史研究』89 号（2015 年）にまとめた。

(3) 湯田中温泉よろづや所蔵「唐獅子図屏風」の調査・研究

長野県湯田中温泉よろづや所蔵の狩野典信・惟信筆「唐獅子図屏風」は、18 世紀後期の木挽町狩野による制作で、宮内庁所蔵狩野永徳筆「唐獅子図屏風」の忠実な模本とみられる。本研究では、はじめて本図の詳細な調査と高精細デジタル画像の撮影を実施した。附属の由緒書や毛利博物館所蔵文書、近世狩野派による遺例等を分析し、永徳以来の近世

狩野派が連綿と制作しつづけた唐獅子図の図像学的研究について、『天皇の美術史』3 で簡略に概説した。詳細は近日中に別稿にて公表すべく準備中である。

（4）虎図の図像学
『天皇の美術史』3 では、南宋末期の文人画家陳容と牧谿の作とされる徳川美術館所蔵「龍虎図」の制作背景や歴代の武家政権に伝来した経緯をたどった。また虎図が 16 世紀に屏風絵、襖や板戸絵へと展開してゆく様相を考察した。
なお関連して、金沢市承証寺・高岸寺・個人蔵の龍虎図・獅子図板戸絵の調査・写真撮影を実施し、その一部を『日本海域研究』48 号（2017 年）に掲載した。

（5）「聚楽第行幸図屏風」の考察
東京藝術大学所蔵「探幽縮図」所収の「聚楽第行幸図屏風」を調査し、『天皇の美術史』3 に執筆した。本図は、行幸後ほどなくして豊臣政権の中枢、とりわけ秀次周辺で制作され、実際の行列の序列に改変を加えて秀吉の親族筋の大名と豊臣家の直臣たちを強調して描くことで、豊臣政治の頂点たる聚楽第行幸の栄華をことほぎ、天皇との対表現のなかで称揚・賛美するものだったことを論じた。

（6）中世肖像画と豊臣秀吉像の考察
豊国大明神像（豊臣秀吉像）について、①神像的肖像画、②中華幻想、③秀吉自筆神号の 3 つの視角からその歴史的意義を明らかにし、『日本「文」学史』1（勉誠出版、 2015 年）、『日本美術史全集』（小学館、2015 年）、『天皇の美術史』3 に執筆した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）
①鳥谷武史・吉岡由哲・黒田智・山野晃「史料紹介　金沢承証寺・高岸寺の板戸絵」（『日本海域研究』48 号　29-43 頁　2017 年）査読有

②黒田智「史料紹介『豊臣御数寄屋記録』」（『学校教育学類紀要』8 号　98-122 頁　2016 年）査読有

③黒田智・石垣孝芳「教科書のなかの源頼朝像」（『教育実践研究』41 号　13-20 頁　2015 年）査読有

④黒田智「本多平八郎の兜」（『民衆史研究』89 号　21-38 頁　2015 年）査読無

⑤黒田智・鳥谷武史・吉岡由哲・石垣孝芳・林亮太・小早川裕悟「史料紹介　宝集寺所蔵「高野大師行状図画」」（『日本海域研究』46 号　79-93 頁　2015 年）査読有

⑥黒田智「加越能の勝軍地蔵」（『日本仏教綜合研究』12 号　71－91 頁　2014 年）査読有

⑦黒田智「水の神の言説、天の河の表象」（『人民の歴史学』199 号　17-26 頁　2014 年）査読無

〔学会発表〕（計 6 件）
①黒田智「水災の記憶と徴候」（別府大学シンポジウム「日本中世の雨と水　自然と文化とを繋ぐ回路を歴史のなかに探る」　於大分県別府市別府大学　2016 年 11 月 3 日）

②黒田智「関東の藤原鎌足」（「きさらづ風土記」講座　於千葉県木更津市木更津市立博物館　2016 年 10 月 8 日）

③黒田智「怪鳥と龍蛇と水犬」（材木いーじーセミナー　於石川県金沢市材木公民館　2016 年 8 月 26 日）

④黒田智「加賀藩奇談　ラグーンに棲む怪鳥を追う」（「金沢学」於石川県金沢市北國新聞社　2015 年 3 月 15 日）

⑤黒田智「本多平八郎の冑」（民衆史研究会大会　於東京都新宿区早稲田大学　2014 年 12 月 20 日）

⑥黒田智「金沢の歴史、歴史のなかの子ども」（保育問題研究集会石川集会プレ学習会　於石川県金沢市教育プラザ　2014 年 11 月 23 日）

〔図書〕（計 9 件）
①髙岸輝・黒田智『天皇の美術史』3　乱世の王権と美術戦略（吉川弘文館　239 頁　2017 年）

②結城正美・黒田智編『里山という物語』（勉誠出版　2017 年）印刷中

③中島圭一編『十四世紀の歴史学』　黒田智「足利尊氏像と再生産される甲冑騎馬肖像画」（高志書院　249-274 頁　2016 年）

④河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・神野英則編『日本「文」学史』1　黒田智「絵と文字」（勉誠出版　175-178 頁　2015 年）

⑤加須屋誠編『日本美術全集』8　中世絵巻と肖像画　黒田智「「肖像画の時代」の肖像画」（小学館　197-203 頁　2015 年）

⑥歴史科学協議会編『歴史の「常識」をよむ』黒田智「肖像画　頼朝像・義満像は本人なのか」（東京大学出版会　78-81 頁　2015 年）

⑦新川登亀男編『仏教文明と世俗秩序』　黒田智「勝軍地蔵の八〇〇年　南九州における軍神信仰の展開」（勉誠出版　427-448 頁 2015 年）

⑧秋山哲雄・田中大喜・野口華世編『日本中世史入門』　黒田智「絵画にかくされたもうひとつの日本文化」（勉誠出版　320-342 頁 2014 年）

⑨国文学研究資料館編『絵が物語る日本　ニューヨーク　スペンサー・コレクションを訪ねて』　黒田智「弘法大師絵巻の中世」（三弥井書店　54-64 頁　2014 年）

６．研究組織

(1)研究代表者

黒田　智（KURODA SATOSHI）
金沢大学・学校教育学類・教授
研究者番号：70468875

(2)研究協力者

吉岡　由哲（YOSHIOKA YOSHIAKI）

鳥谷　武史（TORITANI TAKEFUMI）

山野　晃（SANNO AKIRA）